

# 【特集】新学習指導要領と「大学入学共通テスト」へ向けて

## 英語 ～思考力・判断力を問う試験へ～

### —大学入学共通テスト 第一回試行調査—

#### 1. 試行調査概要

##### ①実施期間

平成30年2月13日(火)～3月3日(土)

##### ②試行調査協力校・受検対象者

158校(全国の高等学校等の約3%)・高校2年生

##### ③実施科目・試験時間・受検者数

科目	試験時間	受検者数*
筆記(リーディング)	80分	6,281人
リスニング(バージョンA)	30分	3,132人
リスニング(バージョンB)	30分	3,154人

(\*平成30年3月8日時点で協力校から報告されたもの)

##### ④特記

- ・マーク式問題(国語・数学のような記述式問題はなし)
- ・求められる力との対応関係は、CEFR A1～B1程度をイメージ。
- ・リスニングは、読み上げ回数が2回のバージョンAと、読み上げ回数が1回のみの問題と2回の問題が混在するバージョンBの2種類。非英語話者が読み上げている問題があった。

#### 2. 大問数・問題形式

##### 【筆記 [リーディング]】

大問数：6問 ※センター試験と同じ。

マーク数：38個 ※2018年度センター試験54個

問題形式：客観問題のみ(記述式問題はなし)

指示文：すべて英語

配点：未公表

センター試験で扱われていた「発音・文法問題・整序問題・会話問題」はなくなり、読解問題だけとなった。英文は、日常的な素材〔広告・ブログ・記事・レポート・書評など〕となった。

##### 【リスニング】

###### バージョンA

大問数：6問 ※センター試験4問。

マーク数：20個 ※2018年度センター試験25個。

問題形式：客観問題のみ(記述式問題はなし)

指示文：日本語

(日本語で状況が説明されている問題もあり。)

配点：未公表

バージョンB(Aと異なる点のみ特記)

マーク数：30個 ※バージョンAより、10個多い。

第1問～第4問Aまでで、バージョンAとバージョンBで、扱う問題数に違いがあった。(第5問、第6問は共通)

第3問～第6問が、1回読みだった。

#### 3. 難易度・分量等

筆記・リスニング共に、語彙・構文等は平易で、英文レベルはそれほど高くないが、正答率が必ずしも高いわけではなく、複数解答が可能な問題では、10%を切る設問もあった。見慣れない問題形式に受検者が戸惑ったものと推測される。また、発言の主旨や共通点・相違点を解答する設問は、思考力・判断力を問うていると考えられる。

2018年センター試験と比較すると、分量は筆記が5,233語(約1,000語増)、リスニングBが2,232語(約500語増)と多くなっている。

題材は、Webページやブログ、ディベートや校内新聞や書評や講義など、生徒の日常生活に関連したものが扱われた。プレゼンテーションの準備などは、主体的な学びを意識したものともとらえられる。

#### 4. 今後のスケジュール

2018年11月に第二回試行調査が実施される予定。

##### 【参考資料】

独立行政法人大学入試センター

『大学入学共通テスト導入に向けた試行調査(プレテスト)結果速報(平成30年2月実施分)』

(数研出版 編集部)